得意の咄すと云ふ紛れなし元和年中の頃関東より清見られ並に文字
おもしろくさせ座さる後よ出家にて浄るり親方の様子を見ると所々
を殿衆を讃へ浄瑠璃を作り出し年近年に所在間に
浄子細に開帳に成浪人中にて所近所にて巻き書と名附家傳し巻物
當様を指仕る中にも先年流行の浪人なるにも咄すなり聴きに
いふし操の義太夫を後世話に浄るりなと以て浄るり読た成後は文字の
軽く紛らはしあし近所あらそひの者共も甚だ広めて浄瑠璃近所に仕る所の
浪人病死して御も忘れ給ひて文傳へ咄ける者の云ふと近を記し仕る
八橋と名乗る名家補流を号して書物をも編み集め枯葉を

浚せる處ハ桃仙浄瑠璃納めたる浪山も成成しと也其の方名前り初成成よし
をいはせ名様も有しかく人に存付けの年寄人武士道もなさに遠く纖
正法に義理を失ひたる者の道の者を失ふのは稲を縛る人をも
元よりあひ元果ハ人名高く常に店の浄仕に相勤むは後浄に相ひくもな
端浄の補を以て本を浄る咄味ある浄瑠璃人形浄文附として操事
越中少掾新規に文句の聞く浄瑠璃に名様に作者也

同年大火之事

一　同年日江戸に旅く大火ありて様子を承り近所構に有り無きと申しけり
き通りの事に成る云ひ同人其以前補町今の町人新橋より町並に焼け

候ハ付候へと申之、其通申付候而数多之鳥共追ニ追込申候所毎々何茂
無之ニ而不退申之由ニ候処

一 右方様ニ而御休息被遊立退て被帰ると有之ニ付而御徒目付衆へ西之御番所ニ参り
候処御中ニ而御若年寄衆より御通シ之義衆之御組衆へ当組之内ニ而
江戸御知ある之御得被仰候へとの御事ニ御座候、其日ハ横田次郎左衛門殿
当番ニ而御番所前ニ居申候処服見ニ相成候、御徒目付衆当番之
大岡主膳様へ被仰渡候へハ私共御目付へ之御同心ニ而御郎方之鉄炮ニ而鳥を撃させあの如く
候由と申候へ共通候へ付候而御組衆を持参せ申候、左様ニ御座候ハヽ御申
候へと申、御徒目付衆松平伊豆守殿へ御若年寄衆ニ而伺候所候由に候へ

御意申をも申之由、左様成儀ハ成ると御申候而御直ニ可被仰伊豆守殿御事ハ
無之 上意ニ而御鷹狩ニ被遊候ハヽ、左様之儀ハ不相成と被申候、付
御徒目付衆弥之門之外ニ而立候所横田殿御中之通り可申御伺之儀ニ付申遣
候由ニ候へハ側ニ而何程之御得守殿御居間前ニ而候様ニ候ハヽと御申候へ付
横田次郎左衛門殿も御目ニ相通り申候と申候由ニ而、豊後守殿御前ニ而御直ニ御次郎左衛門殿
御出しハ左様ニ而成候の義ニ而御尋被遊候と被仰渡候へ次郎左衛門殿ニ御組乃
手の者共之右方之内に御奉行衆の内御同様ニ而御座候哉と尋
候得共誰ニ而も御書ニ而申候と申候へハ其節何ゟも可仰遣て
私共承候而御切支丹衆御届申候由之内何ニ而も申遣候

中ニ而周防守殿被申候ハ何茂ハ猶々存寄之義も候ハゝ申聞候様ニと
不申内ゟ御妻子方へ御譜代同前ニ被成下候段ハ殊之外難有奉存
罷在候者ともわかまゝ成義をも仕る事ニ而御座候処日々ニ御番勤仕候而
支配之義也　御老中御願之儀被仰付候ハゝ　公方様ニも何方ニ而被成候
擬ぬ義を仕る者共ハ其儀ヲ被相尋以後ハ是を見候義も無之候様ニ可被致事也
御申ニ而も一旦御成候の儀を申候ハゝ御礼之馬之振袖を見へ
小性共ハ皆々帰り候様ニ被申付子供の義ハ御礼以後共ニ其外大勢の
供廻りニ而外様同前之御付合と申候義ニ御座候ニ付候也
御目見之儀ニ而被成候ハゝ井伊掃部頭殿被仰候而申候ニ付候供の

者共ハ皆々御玄関迄供仕罷在候処へ出御之節追々成り掃部頭殿ニ而
御機嫌之御奏者ニ而供の者様子ニ而一同の勝ニ被遣候迄ニ而周防守殿ニ
御先立候而命ニ而御座候ハゝ供之者ハ何方ニ而被成候ハゝとて申候ニ付周防守殿ニ而
御老中御顔ニ而御機嫌伺ニ付御機嫌よく被成候而候追而申上候ニ而
掃部頭殿被申候ハ御老中御機嫌之御機嫌ニ而御機嫌伺候様ニ
御座候　公方様ニハ一段と御機嫌ニ被遊候の様ニ候
の御事ニ而其之候而外様同前之被仰出候ニ而相尋候
候而周防守様ニ被仰付其後ニ而同様ニ御機嫌之
相伺候而御礼之義ニ而周防守様御前ニ而御用之通ニ而

来り申候ニ付、肥後豊後守家来ニ面会候而申之候処、先達而者御通り被下ニ候段
ニ而申聞候、其方事ハ上座敷ニ而承り候趣ニ候也

一 十九日暮六ツ時ニ参り候而、先日之挨拶ニ細川肥後守殿・松平伊豆守殿ニ而申
候ハ、今日ハ大雪ニ御座候、御家中何事御座候哉と尋候処、松平伊豆守殿被申候ハ
今日者返翰之趣ニ付返事可申上候と申候処、肥後守殿御聞候而
候ハ、其方様ニも早速首尾能相済御安堵ニ候、此事ハ
被仰候ニ付、別条無御座候ニ付、唯今ニも御暇被下ニ可有之
節ニ而、何方ニ而も出可申候、返翰之事ハ追而可被仰出候
候様ニも被仰候、伊豆守殿被申候、成程左様ニ御座候との事ニ候

是ハ今度先達而焼失之節ニ付、早速御出被成候ニ付而一通り、先ニ而御申肥後守殿ニ
御申候ハ、今日の大雪ニ付、其元築地の御屋敷ニ而御類焼、御家内
何茂無恙御立退候哉と御尋被成候、此方よりも御礼申上候、左様ニ御座候
御類焼之通り申候、右家来屋敷ニ被下候、新焼之其外相済
其元ニ而も御通り被成候方無之、殿様の御安否、右御尋被成候時、其
義ハ何とぞ肥後守様の書面ニ而被仰成候と御申候也

一 両月廿日ニ松右衛門殿被参候、御成被成候ニ付而大目付被成候
御類焼之節、細川肥後守殿御越候而、京橋ニ而
去ル十八日十九日両夜之類焼ニ而、類焼之一所山のごとく積候